

平成30年度

病害虫発生予察情報 第9号

注意報第4号

北海道病害虫防除所 平成30年7月5日

<http://www.agri.hro.or.jp/boujoshou/>

Tel:0123(89)2080・Fax:0123(89)2082

てんさいの褐斑病が早発しています！

すみやかに防除を開始しましょう！

芽室町の予察ほにおいててんさいの褐斑病の初発が平年より早く確認されています。

札幌管区气象台による6月28日発表の1ヶ月予報によると、7月29日まで気温は平年より高く、降水量は平年より多いと予報されています。本病は気温が高く、周期的な降雨があると急激に蔓延するとされており、今後多発する可能性が高いと考えられます。

本病の防除は初発直後までに開始すると最も効果が高いことから、すみやかに防除を開始してください。その後も小麦の収穫作業等により防除作業が先送りになって、薬剤の散布間隔が開きすぎないように計画的に防除を継続してください。

1. 発生地域 全道

2. 予想される発生時期 早

3. 予想される発生量 やや多

4. 注意報発令の根拠

- 1) 予察ほでの初発は芽室町の「リッカ」で7月3日（平年7月12日）、「あまいぶき」で7月3日（平年7月13日）、「スタウト」で7月3日（平年7月15日）、と平年より早く確認されている。7月3日現在、長沼の「あまいぶき」（平年初発：7月10日）、訓子府の「リッカ」（平年初発：7月11日）では初発が確認されていない。
- 2) 本病は高温多湿条件で多発するとされている。また、病原菌は気温が20度前後になると、越冬した罹病葉上に新しい分生子を形成し、これが飛散して第1次発生源となる。
- 3) 6月下旬～7月上旬にかけて全道の広い範囲で多雨傾向となっている。6月28日発表の1ヶ月予報によると、7月29日まで気温は平年より高く、降水量は平年より多いと予報されているため、本病の発生に好適な条件が続くと考えられる。

5. 防除対策

- 1) 初発直後までに散布を開始する。
- 2) マンゼブ剤および銅水和剤を基幹薬剤とし、散布間隔は14日以下で、高温多湿条件となった場合は散布間隔を10日以下にする。
- 3) QoI剤耐性菌の発生が広範囲に確認されているため、褐斑病に対する防除薬剤として、QoI剤（アゾキシストロビン、クレソキシムメチル、トリフロキシストロビン）は使用しない。
- 4) DMI剤（ジフェノコナゾール、テブコナゾール、フェンブコナゾール、テトラコナゾール）およびカスガマイシン剤耐性菌が全道各地で発生しているため、混合剤も含めこれら系統薬剤の使用回数を可能な限り低減する。
- 5) 本病に罹病しやすい品種が栽培されている地域では本病の発生推移に注意する。